

船引地区隊

船引地区隊は、本部訓練分団と庶務分団、船引分団・文珠分団・美山分団・瀬川分団・移分団・芦沢分団・七郷分団・要田分団の計10分団、地区隊長1人、副地区隊長2人、分団長10人、副分団長10人、部長36人、班長136人、団員355人の合計550人で組織しています。

また、車両はポンプ車8台と積載車23台を所有しています。



▲飛田団長(写真右から6番目)、鈴木訓練本部長(右から5番目)、佐藤地区隊長(左から4番目)と副地区隊長、分団長、副分団長

地域の安全安心を守る
田村市消防団
 No.6
 消防団だより

主な活動 ～地域と密着した活動を展開～

船引地区隊では、毎月11日を「船引地区隊無火災デー」とし、地区隊全域で夜警を行っています。

この活動は、東日本大震災が発生した2011年3月11日を忘れないという思いと、過去に11日に火災が多発していたことから始められました。

また、「灯ろう流しと花火大会」をはじめ、各地区のイベントやお祭りなどの警備活動にも参加しています。



▲出初式の後、大鎗矢公園から船引駅までを防火パレード



▲第39回福島県消防操法大会に田村支部代表として出場した移分団



▲国指定重要文化財の堂山王子神社で放水などの防災訓練を行う七郷分団



▲文珠地区の防災訓練で、体育館に避難した住民に非常食を配る団員

木村香珠さんが作文で全日本中学校長会長賞



大越中学校3年の木村香珠さんの作文「共に生きる社会」が、社会を明るくする運動作文コンテストの全国審査で全日本中学校長会長賞(優秀賞)を受賞しました。

伝達式は12月24日に大越中学校で行われ、古田福島保護観察所長(写真前列左)から木村さんに賞状などが手渡されました。湯浅校長(写真前列右)と、平林田村地区保護司会長、横山田村市支部長などが同席しました。

この平成という時代にあふれる、悲しく、残酷な事件。テレビから流れる毎日のニュースの中には、大人・少年少女らによる年齢、性別を問わない犯罪者によって引き起こされた事件の数々が止めどなく流れている。それらの内容は、身の回りでも起きそうなものから、耳を疑うような想像もつかないものなどさまざまだ。

なぜそのような事件が起きるのだろうか。また、そのようなことをなくすためにはどうしたらよいのだろうか。

先日、女子高校生が女子高校生を殺害する事件が起きた。加害者の女子高校生は被害者の首と手首を切断した。こんな事件を起こした理由は「人を切断してみたかった」などと供述しているらしい。

私はこの少女の生い立ちを知り彼女の心の闇が少し見えた気がした。彼女は母が死んでしまい、父は他の女性と結婚し、現在は一人暮らしをしていたようだ。多分、彼女はすごくすごく寂しかったんだと思う。自分を見守ってくれる人が誰もいない。その現実が彼女の心の闇を深くし、犯罪へと導いていったのだと思う。そのニュースを見て彼女を批判する私たちも、彼女と同じ状況になったら、何か魔がさし、犯罪を犯してしまうかもしれない。

でも私には、私のことを見守り、優しく愛してくれる人がたくさんいる。「もういいからっ！」

私はそう言って祖母の手を振り払った。ごく最近のことだったように思う。私が朝、学校に行くときに、開いていた私のカバンの口を閉めようとしていた祖母にそのような言葉を言ってしまった。別にケンカしていたわけではない、ただ少しイライラしていただけだった。

その日、私は沸々と湧き上がってくる後悔の思いに駆られながら学校への道を歩いた。そんなとき、通りがかったおじいさんに、「おはよう。いってらっしゃい」と言われた。私はさっきまでのイライラした気持ちも薄れ「おはようございます。いってきます」と言った。私そこで、「いってらっしゃい」と言って手を振る祖母に何も答えずに来てしまったことを後悔した。

その日の夕方、私が家に帰ると祖母は私を笑顔で迎えてくれた。私はその笑顔を見た時「なんてことをしてしまったんだ」という思いが込み上げてきて反省の気持ちでいっぱいになった。私はその日、無条件に私を愛し、優しく甘えさせてくれる祖母を大事にしなければならないと思い、また私を見守ってくれる身近な人にもうあんなことはしないと心に誓った。

私たちは、日々の中で自分の思い通りにならないと、ちょっとのことにイライラしてその不満を人にぶつけることで解消しようとしてしまうこともある。犯罪を犯してしまう人々には、自分のことを見守り、支えてくれる人がいないのかもしれない。自分が見放されたという孤独感とやり場のない思いが募り、犯罪に走ってしまうのではないだろうか。

誰にでも、少しの孤独感や不満はある。しかしそういう孤独感や不満があれば人はみな罪を犯すわけではない。その違いはなんだろうか。理由はさまざまあるかもしれないが、自分を見守り、声を掛けてくれる人が身近にいるかどうかということも大きく関わっているのではないと思う。私の住む町は穏やかで、テレビから流れる残酷なニュースとは縁のない所のように思える。でも、今この世界で、さまざまな犯罪が起きているのも事実だ。

今、私たちに求められるものは何なのだろうか。また私にできることはないだろうか。

それは、一人一人が、お互いをお互いに見守り、支え合って生きる社会をつくることだろう。今、私は親、祖母、そして地域の人々に見守られて生きている。そして私たち自身も、ある意味で親、友達、地域の人々を見守っているのも事実だと思う。

私一人で世の中の犯罪をなくすことはできない。だからこそ私は、身の回りの人を見守り、見守られることで、一人一人の居場所をつくり、明るい地域社会を築いていきたい。そんな温かい地域社会をつくるのが、犯罪や非行のない町づくりへの第一歩だと思う。